

## SGH企画：第6回さくら塾 早稲田紘士先生講演会

「病院で働く ～医療現場の最前線～」

対象： 医師・看護師等、医療関係職種の希望者

平成27年9月12日(土) 13:00～14:30

講師： 県立多治見病院医師 早稲田紘士先生

参加者： 生徒27名 教員2名

病院で働く人々や患者さんとの関わりについて、医師の立場から語っていただきました。



講義の光景



講義後の談話会

- 昨年に引き続き、県立多治見病院医師の早稲田紘士先生に講演をお願いしました。早稲田先生は、大学・大学院で哲学や美学(音楽学)を学んだのち、医学の道に転じた経歴をもつお医者さんです。
- 今回は、医療現場で働くさまざまな職種の人々や、医療活動を通じた患者さんとの関わりについて、現場で活動する医師の立場から、語っていただきました。
- 医療の意義、生命観や死生観等、哲学を専門的に学んだ経験のある先生ならではのお話でした。

### <生徒の感想>

- 早稲田先生の話には本当に感動しました。医療系への進学を目指している私にとって、とても現実を知るよい機会になりました。**人の死を見つめるということはなんと重くそして尊いことなのか、ということを感じました。**私は、医療系志望と言いながら、医療の世界の本質を知らずにいました。その格好良さだけにあこがれていたのだと思い知らされました。「人は死を宣告されると、まずその事実を認めようとせず、その現実を拒みます。そしてそれに対して怒りを覚え、続いて自分の死の代償となる物を求め、その後に来る憂鬱に悩みまくり、苦しんで苦しんで、最後には自分が生きた証を何か感じて死んでいきます」。そんな話には、そうなのかと驚きました。人が自分の死を見つめるということは、こんなにすごいことなのかと思い知らされました。でも、そこまでいける人はまだ幸せで、多くの人はその途中段階で寿命が尽きてしまうという事実も知り、苦しむだけで

終わらなければならなかった人のことを想像すると、つらくなってしまいます。そんなことを知った今、果たして自分はそんな状況を抱えた人たちに、落ち着いて向き合うことができるのかと、不安になりました。正直、今の私には絶対にできないと思います。これまで、人の命を助けるという格好良さだけに魅力を感じていた私は、助けられなかった時のことは全く考えていなかったことに気づきました。この講話を聞いた後は、もうそのことばかりが頭をめぐりました。**先生が最後に「医者というのは、いかに生かすかではなく、いかにより良く死んでもらうのかを考えます。でもより良く生きてもらうために頑張るのです」とおっしゃった言葉が忘れられません。**この講話では、医療に携わることの本当の意味を教えていただいたと感じます。このことを深く意識しながら、今後の進路選択を考えていきたいと思いました。本当に、いい話を聞かせていただき、ありがとうございました。

- 昨日の早稲田先生のお話を聞いて、**医療の仕事は医者だけいても看護師だけでもいい駄目で、臨床検査技師や薬剤師の方など様々な分野の人に聞いたりするなどしてみんなで一人の患者さんを見ていくという連携をして助けあっていかないと成り立たないと言うことがわかりました。**患者さんに一番接するのは看護師で、医師には言えないことでも看護師になら言えると言うことがあるということや医師が気づけないようなちょっとした異変などにも気づけるのが看護師と言うことなどを聞いて、私は看護師志望なので、そういうちょっとした事に気がつけるような看護師になりたいです。
- 早稲田先生の話聞いてみて、直接病気を治す人は医者だけれども、それ以外の人、例えば看護師のほうが医者よりも身近な存在で患者の人が心を開きやすい存在であることがわかりました。また、薬を出すのは医者だけれども、実は薬剤師ともちゃんと相談していてそれで薬を決めているらしいので、医療関係者全員で一丸となって病気を治していくことが大切だとわかりました。総合診療医について少し話を聞いてみたけど、実際には総合診療医になろうと思ってる人は少なく、ならざるを得ないへき地という環境だからそのような医者になっていくといった方が的確だとわかりました。だから、外科+ $\alpha$ や内科+ $\alpha$ をやっている、総合診療医になっていく感じだとわかりました。また、面接の時に面接官が知りたいのはなぜ医療を学びたいのか、ということなのでもう一度そのことを考えてみたいと思いました。
- 私は将来看護師になりたいので今回さくら塾に参加しました。参加してみて、改めて生死の境で働くことの意味について考えさせられました。今までは患者さんの病気が治るように共に闘いたいと思っていましたが、話を聞いてみると、現実にはそんなに甘いものではないと知りました。**末期癌の患者さんの場合、“治す”ことはできず、いつか迎える死を待つしかありません。そんな状況で医者、看護師ができることは、患者さんが死を受け入れられるようにサポートすること、また、患者さんを不安にさせないように寄り添うことです。簡単なことではないと思いますが、患者さんの気持ちに寄り添える看護師になりたいと思いました。**
- さくら塾に参加して、オープンキャンパスやインターンシップでは聞けないようなとても貴重な生の話を聞くことができました。今日の話を活かして、立派な看護師になりたいです。
- 今日はさくら塾に始めて参加しました。実際に病院で働いている人の話はどれもリアルで説得力があり、とても勉強になりました。
- 医者はどうやって死んでいくのかを考える仕事だと早稲田先生はおっしゃりました。癌末期の患者のエピソードを聞き、始めてその事実を否認し、その後怒りを覚える患者。そして最後には「取引」というかたちで亡くなる。このように患者が少しでも思い残すことのないようにするのも医者や

看護師の仕事だと聞き、医者は怪我や病気を治すだけではないということを知りました。僕の「**医者を目指しているが、具体的に何になりたいのか分からない**」という質問に対しては、「**今はまだ決める必要はない。大学に入って勉強していくうちに必ず自分のやりたいこと、専門としていきたいことが見つかる。今はまず医者になりたいとかいう気持ちを持っていることが大切だ**」と、おっしゃいました。また、どんな医者にしても、方法が違っただけで目的は同じだという事も聴き、確かにそうだと納得しました。今日は今後、ポイントでもあった「**やりたいこと・やるべきこと・やってもいいこと**」も考えながら自分と向き合い、進路について考えていきたいと思える貴重な時間になりました。今日の講演で僕はさらに医者という職業に興味を持ちました。本気で目指したいと思います。今後もこのような機会には積極的に参加していきたいと思えます。

- 今日、早稲田先生の話聞いて、医療に対する考え方が変わりました。今まで、医療というと病気を治すもの、という見方でしたが、先生の話聞いていくうちに治すだけではないと分かりました。患者の病気を治す間、患者の体調を把握して心の状態までもサポートしていく、治った後の生活のことまで考えることはすごいと思えました。「**ただ治すだけでなく、支え、寄り添っていく**」。この言葉を聞いた時、医療現場で働く人たちの患者に向き合う気持ちはとても強いのだと感じました。今回、現場で働く方のリアルな話を聞いたことで、自分の選択肢を増やす事ができ、有意義な時間を過ごすことができました。
- 今回のお話で医療関係者の方々がどのような仕事を行われているのかがよく分かり、自身の進路についてより深く考えることができました。経験した患者さんの話を聞いて、生きること死ぬことについて考えることができ、今までの自分の考え方を直すことができました。
- 医師になるということは、人の死に寄り添って生きていくということだと再認識した。これからの医療は外科医にならない限り、どう救うかではなくどう看取るかになると分かった。
- 最後に、「**やって失敗したことは20年後に笑い話になるが、やらなかったことは後悔するだけだ**」という言葉が心に残った。